

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和7年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	県民文化部文化振興課
指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団

1 施設名等

施設名	長野県伊那文化会館	住所 電話 ホームページ	長野県伊那市西町5776 0265－73－8822 https://inabun.jp/
-----	-----------	--------------------	--

2 施設の概要

設置年月	昭和63年12月	根拠条例等	長野県文化会館条例
設置目的	県民の文化の振興と福祉の増進を図るため設置する。		
施設内容	・大ホール(1,371席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(5室) ・小ホール(436席)・・・舞台設備、音響設備、照明設備、楽屋(2室) ・美術展示ホール、プラネタリウム(80席)、レストラン、駐車場(普通車590台・身障者用6台、近隣施設と共用)		
利用料金	大ホール(39,200～472,700円)、小ホール12,400～149,500円)、楽屋(900～6,400円)、美術展示ホール(6,400～40,800円) プラネタリウム(120～400円)、その他「附属設備」「冷暖房」「持込電気器具電気料」など		
開所日	毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始(12月28日から1月3日まで)及び保守点検日を除いた日		
開所時間	通常:9:00～17:00、最長:8:00～21:30(ただし、美術展示ホールは18:00まで)		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期 間	管 理 形 態	管理受託者又は指定管理者等
～平成17年度	管理委託	財団法人長野県文化振興事業団
平成18年度～20年度	指定管理	財団法人長野県文化振興事業団
平成21年度～25年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団
平成26年度～30年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団
令和元年度～5年度	指定管理	一般財団法人長野県文化振興事業団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	一般財団法人長野県文化振興事業団	指定期間	令和6年4月1日 ～ 令和11年3月31日(5年間)
選定方法	非公募		

5 指定管理料(決算ベース)

令和7年度(A)	令和6年度(B)	差(A)－(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
243,735 千円	226,326 千円	17,409 千円	
	増減理由	人件費の増や、労務単価の上昇に伴う委託料の増により、管理費が増加したため。	

6 指定管理者が行う業務

・施設及び設備の維持管理に関する業務 ・文化会館の利用の許可及び利用料金に関する業務 ・芸術文化の振興に資する事業の企画及び実施に関する業務 ・上記業務に附帯する業務
--

7 利用実績等

(1)利用実績【指標:大・小ホール、美術展示ホール、プラネタリウム稼働率】(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和 7年度(A)	35.6	33.3	59.1	67.6	74.1	60.0	59.3	75.0	48.8	47.9	58.3	47.1	55.5
令和 6年度(B)	57.0	45.4	67.3	50.0	69.5	80.4	75.0	58.7	57.6	45.8	57.7	61.5	60.5
(A)/(B)	62.5	73.3	87.8	135.2	106.6	74.6	79.1	127.8	84.7	104.6	101.0	76.6	91.8
増減要因等	・巡回する貸館(県展や吹奏楽コンクール県大会等)が無かったことが影響し、令和6年度より減少した。												

(2)利用料金収入(単位:千円、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 7年度(A)	1,696	2,165	2,597	1,731	2,680	2,775	3,198	2,902	1,981	979	1,719	1,413	25,836
令和 6年度(B)	1,293	2,204	1,817	1,458	4,855	2,578	2,375	3,864	2,981	1,289	1,935	1,946	28,595
(A)/(B)	131.2	98.2	142.9	118.7	55.2	107.6	134.7	75.1	66.5	76.0	88.8	72.6	90.4
増減要因等	・巡回する貸館(県展や吹奏楽コンクール県大会等)が無かったことが影響し、令和6年度より減少した。												

(3)利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
無	

(様式2)

(4)開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和 7年度(A): 302日	令和 7年度(A): 9:00～21:30	無	
令和 6年度(B): 282日	令和 6年度(B): 9:00～21:30		

(5)サービス向上のため実施した内容

申込期限を過ぎても可能な限り期間外申請を受けるなど、利用者の要望に応えた。 また、閑散期(4月)の割引、申込期限(40日前)を過ぎてからの時間貸し制度を行うなどして利用促進を図った。 小ホールの展覧会使用における利用料金の割引、ピアノの利用料金の割引などのサービスを実施した。
--

(6)その他実施した取組内容

建物周囲・ロビー・洗面室等の清潔さを確保するほか、植栽の管理を行った。 屋外にベンチを増設するなど、利用者のニーズに応えた。

(7)利用者の主な声及びその対応状況

利用者懇談会や運営協議会を開催し、来場者の減少傾向対策、広報・宣伝の強化、大・小ホール、美術展示ホール、プラネタリウムを連動する自主事業の企画や来場者に本来の目的以外の催事を案内し鑑賞機会を増やす取組みのほか、子どもの文化芸術の鑑賞機会の増大や芸術文化活動の受け入れ先としての会館のあり方、部活動の地域移行の問題などについて多くの意見をいただき、今後の運営に役立てることができた。 これからは、来場者の減少傾向への対策のひとつとして今以上に広報・宣伝に力を入れ、当館の強みである美術展示ホール、プラネタリウムをホールと連動・活用するなど、施設機能の相乗効果を活用した運営・事業を展開していく。 また、当館を多く利用する次世代を担う子どもたちに対しては、貸館や自主事業を通じて、文化芸術の振興・支援を積極的に講じてまいりたい。
--

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入) ※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指 定 管 理 者	所 管 課	
			評価
施設の目的に沿った管理運営	「県民の文化振興と福祉の増進」を使命として、「提案書」「計画書」に掲げた目標達成に努めた。 管理運営者として要求される「サービスの向上」と「経費の縮減」に沿って、管理運営を行ってきた結果、主要業務である「施設管理」「貸館事業」「自主事業」において、計画どおり業務を遂行できた。 管理運営については、安全な施設管理を行うとともに、電力料金が高騰するなか電力使用量の節減を図るなど環境に配慮した運営に努めた。 財政的にも効率的な運用に努めたが、人件費および電気代の上昇により387万円余の純損となった。 貸館事業においては、利用者の平等利用に務め、利用者の立場に立った貸館サービスを行った。 このように、幅広いニーズに対応した事業を展開し地域文化の振興に貢献することができた。	基本協定書、仕様書及び年度計画書に基づいた管理運営が実施されたと認められる。	B
平等な利用の確保	・会館を利用しようとする人・団体に対しては、制限をしていない。 ・主に南信地域の幅広い地域の人々へ、またグループ・個人を問わず学び、参加し、創造し、発信しようとする幅広い県民へ、平等公平な利用の確保に努めた。	平等な利用が確保できたと認められる。	B
利用者サービス向上の取組	・ホームページ、SNS、メディア(プレスリリース)、「イベントガイド」等で県民への情報提供を図った。 ・イベントアンケートや運営協議会、利用者懇談会等を通じて利用者意見を取り入れた。 ・施設予約システムのオンライン化により利便性向上を図った。	・アンケートや利用者懇談会等を通して利用者のニーズの把握に努め、利用者の意見に対して柔軟に対応している。 ・施設予約システムのオンライン化により、広域的なアクセシビリティの向上に取り組んだ。	A

項目	指 定 管 理 者	所 管 課	
			評価
自主事業	会館に隣接する春日公園で毎年開催されている「わんぱく広場」と同時開催し、全館および屋外スペースを活用して実施した「伊那ぶんぶん子どもまつり2025」をはじめ、日本を代表する若手実力派チェリスト12名によるアンサンブルコンサート「宮田大 12人のチェロアンサンブル」など、計35事業を実施した。 これらの事業を通じて、子どもから大人まで幅広い世代の多様なニーズに応える文化事業を展開し、多くの来場者から好評を得るとともに、地域文化の振興に寄与することができた。 主な自主事業の実施状況は以下のとおり。		
	ア 伊那ぶんぶん子どもまつり2025(4月26日) 会館に隣接する春日公園で毎年開催される「わんぱく広場」と同時開催とし、文化会館の全館内外のスペースを活用して実施した。普段文化会館へ足を運ぶ機会の少ない子育て世代や地域住民にも来館してもらうことを目的とし、開放的な環境で多彩な文化体験を提供した。野外でのオーケストラ演奏をはじめ、アートワークショップ、人形劇団による公演および人形づくりワークショップ、プラネタリウムの放映、木曾のおもちゃで遊ぶコーナー、ストリングラフィ演奏、などを実施し、子どもから大人まで幅広い世代が気軽に芸術文化に親しむ機会となった。わんぱく広場との相乗効果により、文化会館の認知向上と新規来館者の獲得につながる事業となった。		
	イ 第3回クラシック音楽の祭典 ヘンデル「メサイア」(6月8日) 地域の音楽団体によるクラシック音楽の祭典として、ヘンデル「メサイア」演奏会を開催した。公募による合唱団と地元オーケストラが協働し、オーケストラがフルパートで演奏可能なモーツァルト編曲版を採用し、原語のドイツ語による合唱で上演した。 合唱団は高校生から80代までの幅広い世代、総勢110名で構成され、世代を超えた地域参加型の事業となった。ソリストには長野県にゆかりのある声楽家4名を起用し、管弦楽は伊那フィルハーモニー交響楽団が担当するなど、地域の音楽関係者が一体となって創り上げた公演となった。「伊那谷に音楽文化を根付かせる」という35年にわたる活動の集大成として位置づけられ、本公演をもって事業の一区切りとした。長年にわたる継続的な取り組みにより、地域における音楽文化の定着という当初の目的を達成した。		
	ウ 音楽家気分で世界のピアノを奏でようコンサート(6月28・29日) 当館で所有する外国製のピアノスタインウェイおよびベーゼンドルファーを演奏体験できる機会として、毎年実施してきた事業である。これまでは、参加者が1時間自由に演奏できる体験型企画として実施してきたが、今回は一歩進め、演奏体験を「コンサート形式」へと発展させた新たな試みとして開催した。公募により選ばれた7組の出演者が、1組につき60分間、自身で構成したプログラムによる“自分のコンサート”を実施。会場は小ホールとし、ベーゼンドルファーを使用して2日間にわたり開催した。演奏者にとっては本格的な公演経験を積む機会となり、来場者にとっても多様な演奏スタイルや表現に触れることができる場となるなど、演奏者・鑑賞者双方にとって満足度の高い事業となった。	地域の団体とも連携して、施設の特長を活かした事業を展開し、幅広い世代の多様なニーズに応え、文化芸術に親しむ機会を創出した。	A
	エ ユースコーラスフェスティバルVol.10 (9月7日) 上伊那地域の中学校および高等学校の合唱部生徒が一堂に会し、互いの演奏を聴き合い、歌い合う合唱祭として開催した。中学校4校、高等学校6校、総勢約150名の生徒が参加し、学校の枠を超えた交流を図るとともに、日頃の練習の成果を存分に発揮した。 若々しく伸びやかな歌声と多彩なハーモニーがホールいっぱいに響き渡り、生徒同士が互いの表現から刺激を受け、合唱技術や音楽性の向上につながる有意義な機会となった。		
	オ 伊那ぶんぶん寄席(9月13日) 古典落語の名手であり、昨年6月に落語協会会長に就任した柳家さん喬と、次代を牽引する人気実力派・柳家喬太郎による師弟競演を実施した。さらに音曲師の柳家小春も出演し、落語と音曲が織りなす寄席本来の雰囲気存分に味わえる公演となった。 南信公立文化施設連絡会議加入ホールであるカノラホールとの協働企画として実施し、「伊那ぶんぶん寄席」と12月21日開催の「かのら寄席」の両公演に来場した観客を対象に、噺家の手ぬぐいやサイン色紙を抽選で約30名にプレゼントする連動企画を行った。 柳家一門が勢揃いする贅沢な内容に加え、両館の職員が相互に公演を視察するなど、施設間連携の強化と今後の事業展開に向けた有意義な機会となった。		
	カ 天空のオーケストラ-鹿嶺高原コンサート(10月5日) 伊那市長谷に位置する鹿嶺高原のKareinaテラスを会場に、地元オーケストラおよび合唱団がプロの指揮者のもと演奏を行い、伊那谷の雄大な自然とクラシック音楽の調和を届けるとともに、二つのアルプスに囲まれた伊那市および南信地域の観光の魅力を発信することを目的に野外オーケストラコンサートを企画した。 昨年度は荒天により伊那文化会館大ホール・ホワイエでの開催となったが、今年度はそのリベンジとして、念願の鹿嶺高原で実施することができた。当日は標高約1,800mの会場で曇天ではあったものの、約8曲を披露し、来場者は自然に囲まれた環境の中で音楽を味わう特別な体験を楽しんだ。途中、霧の中に入るなど、自然ならではの演出も楽しめた。また、開放的な環境の中で演奏者ものびのびと演奏する姿が見られ、伊那市との連携を一層強化するとともに、文化事業と観光振興を結び付けた新たな発信の可能性を示す機会となった。		

	キ 宮田大12人のチェロアンサンブル(11月9日) 国内外で活躍する著名な演奏家である宮田大氏をはじめ、日本を代表する若手実力派チェリスト12名による特別アンサンブルコンサートを開催した。 本公演のためだけに編成されたスペシャルなメンバーによる演奏は、県内では滅多に鑑賞することのできない国内トップレベルの内容であり、地域住民に質の高い音楽芸術に触れる貴重な機会を提供することができた。当日は、客席とステージが一体となる熱気に包まれ、地方公演とは思えないほど完成度の高いステージが実現した。来場者からは「ぜひまた開催してほしい」「チェロの魅力を存分に味わうことができた」などの好意的な感想が多数寄せられ、県外からの初来場者を迎えるなど、地域芸術文化の広がり発信力向上に寄与する結果となった。 ク アートシェア信州～ダンスと音楽がつなぐ道～ (3文化会館連携事業) 公共ホール創造ネットワークモデル事業 (12月2・3・10・11・17・18日) 当事業団の3文化会館と県および3町村が、(一財)地域創造と連携し、コンテンポラリーダンスとクラシック音楽を取り入れたプログラムを2カ年で制作・実施するもので1年目はアウトリーチ、2年目は作品制作および公演を行う事業を実施。 本年度は小布施町、松川村、中川村の3町村が参加し、各地域の小・中学校において、ダンスと音楽によるアウトリーチ事業を実施した。 アーティストには、長野県出身の横山彰乃氏(ダンサー・振付家)、外山賀野氏(チェロ)、海沼優衣氏(パーカッション・マリンバ)を迎え、6月から県および町村の担当者と共にアウトリーチプログラムの検討を重ね、12月に各町村で実施した。3名によるコラボレーションパフォーマンスで始まり、各ジャンルの特徴を生かした構成の後、再びジャンルを融合させた内容とし、子どもたちは全身で音を感じながら、自由な発想で身体表現を楽しんだ。学校教員からは、「恥ずかしがりやの子が積極的に体を動かし、ポーズを取る姿に驚いた」「普段あまり表情を見せない子が笑顔になった」といった声が寄せられた。また、町村担当者からも、「アウトリーチのイメージが掴めていなかったが、教える・教わる関係ではなく、自由に表現を楽しみ想像力が広がる時間だった」との振り返りがあり、文化芸術の持つ力と意義を改めて認識する機会となった。		
職員・管理体制	職員20人。 協定書(事業計画書)に基づき館長、副館長、施設運営課・企画広報課・舞台課を配置。 課長等以上で構成する検討会議を設置し、管理運営等事項について検討・決定した。検討結果については、調整会議、各課会等で全職員に周知徹底した。	仕様書及び年度計画書に基づく適正な職員配置が行われている。	B
収支状況	・収入額 303,798千円(うち指定管理料 243,735千円) ・支出額 304,588千円 ・収支差額 △790千円	概ね効率的な運営が行われていると認められる。	B
総合評価	自主事業では、「伊那ぶんぶん子どもまつり2025」をはじめ、ヘンデル「メサイア」、ユースコーラスフェスティバル、宮田大12人のチェロアンサンブル、鹿嶺高原コンサートなど、多彩な音楽・文化事業を実施した。また、美術展や書道ワークショップ、プラネタリウム事業、外国にルーツを持つ子ども向け文化体験など、幅広い分野で地域住民の文化芸術への参加機会を創出した。地域団体や学校、自治体との連携を深めながら、世代や分野を超えた交流を促進し、地域文化の振興と新たな来館者層の拡大に大きく寄与した。 管理運営面においては、利用者懇談会を誰もが参加しやすいオープンフォーラム形式に変更し、多様な利用者の声を施設運営に反映することで、県民サービスの向上に努めた。また、利用者一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を徹底し、利用者満足度の向上と信頼関係の構築を図った。 地域連携の面では、南信公立文化施設連絡会議の加盟館拡大や駒ヶ根市文化会館職員の研修受入れを通じて、地域文化施設とのネットワーク強化と人材育成に積極的に貢献した。 収支面では、人件費及び電気料金の上昇による厳しい経営環境の中、自主事業の好調な実施による収入確保と継続的な経費節減に努めた結果、安定した収支運営を維持することができた。 以上のように、全職員が一丸となって利用者サービスの向上、地域連携の推進及び効率的な施設運営に取り組み、年度目標を概ね達成するとともに、指定管理者として求められる役割と責任を十分に果たすことができたと評価している。	人口減少やニーズの多様化する時代において、幅広い対象に向けた自主事業の実施や、地域の文化施設とのネットワーク強化や人材育成に積極的に取り組む姿勢が見られた。仕様書の内容のとおり、適切な管理運営が行われている。	B

＜評価区分＞ A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項 目	指 定 管 理 者	所 管 課
施設の管理運営の課題	人口減少や少子高齢化、趣味・嗜好の多様化、経済環境の変動等により、貸館利用及び自主事業の集客については、今後一層厳しい状況が見込まれる。このような状況の中、利用者満足度の向上と施設利用の促進を図るため、利用者サービスのさらなる充実に取り組む必要がある。また、地域ニーズを踏まえた魅力ある事業を企画・実施することで、新規来場者の獲得やリピーターの増加につなげ、施設の活性化と安定的な運営を目指していきたい。 また、当館が、南信地域の文化芸術振興の拠点として、その使命を果たしていくためには、内外の環境変化に対応しながら、安全・安心で快適で使いやすい会館を基本に、大・小ホール等はもとより当館の強みである美術展示ホールやプラネタリウムの効果的活用を積極的に図り、心に刻まれる魅力あふれる事業を展開していくことが必要である。 会館以来リハーサル室がなく楽屋も不足がちで、さらに駐車場スペースの恒常的な不足によりお客様に不便を強いていることも課題である。 日々の業務については、急速に変化する会館を取り巻く環境に適切に対応するため、より効率的な運用と職員の能力向上が不可欠である。さらに業務プロセスの標準化および可視化を進め、安定的かつ効率的な業務運営体制を構築することが求められる。 また、地域団体や関係機関との外部連携を強化し、多様化するニーズへの柔軟な対応力を高める必要がある。 さらに、災害時や突発的な需要変動に備えたリスク管理体制の整備を進める必要がある。 当館を老若男女・障がいの有無や地域を問わず広く多くの方々に利用していただくためには、利便性を追及するとともに、広報宣伝は重要な課題である。大・小ホールや美術展示ホール、プラネタリウムといった会館の魅力やイベント情報を適時・的確かつ効果的に県民に周知し来館してもらえるよう、広報宣伝の媒体、エリア、数量、内容等を改めて見直し、改善していくことが必要である。 人材育成の面では、専門性・経験・技術の継承を確保する職員研修等をさらに充実させていく必要がある。	・施設や設備の課題に対しては、県全体のファシリティマネジメントの中で、計画的な修繕、改修を行っていく。 ・利用者サービスの更なる向上や、来館者数増加のための効果的な広報宣伝の取組をお願いしたい。 ・今後はこれまで以上に地域に専門性・経験・技術のある人材が少なくなくなることが予想されるため、人材育成・人材確保にはより力を入れていく必要がある。

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:令和2年11月10日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
地域に密着した施設の特色を活かした取組を、地域と協力して進めるとよいのではないか。	美術展示ホールを活用した地域の小学生の書道展のほか地域の中学生がプラネタリウムとコラボレートする演劇や隣接する公園での天体観望会を行っている。	館の特色である美術展示ホールとプラネタリウムを活かして、地域の小中学生と協力した事業が行われている。
施設利用料金の減免制度について積極的な広報を行い、利用者の増加を図る取組をお願いしたい。	施設利用料金の減免制度については、ホームページで紹介しているほか、外部からの問い合わせや初めての利用時には、丁寧に案内している。	減免や割引制度について幅広く周知いただき、引き続き利用促進につながる取組をお願いしたい。
託児サービスの一層の充実や、親子で来館できるサービスの充実をお願いしたい。また、地域(中学校、高校等)の行事を含めながら、身近で親しめるようなものを行うことは、利用者のサービスの向上につながると思う。	リニューアルしたプラネタリウムでは新しく親子席を設けた。地域の学校行事(入卒式、文化祭等)やクラブ活動にも多く利用していただいている。	引き続き多くの地域住民に気軽に足を運んでいただけるよう、広報等に取り組んでいただきたい。
今後スマートフォン、パソコンを使って情報収集を図る傾向は一層強まると思われることから、利用者目線に立ったホームページの充実に努めてほしい。また、フェイスブックやツイッターなど、SNSでの情報発信を進め、若年層への情報提供をより積極的に行ってほしい。	ホームページについては、令和3年4月にリニューアルし、利用者にとって、よりわかりやすくなるよう改善した。フェイスブックやツイッターによる情報発信についても令和3年度から実施しており、若年層を含む広い年代層へ情報提供を行っている。	ホームページのリニューアルなど、利用者目線の情報発信に努めている。SNS等を利用した、効果的な情報発信を引き続きお願いしたい。
地元の中・高校生の利用も多いことから、地元の中・高校生や出身者が鑑賞者、あるいは出演者となり、次世代の文化の担い手となるような自主事業は、当施設の特色を活かした企画となると思われる。	地域の小学校の合唱団等や当館のジュニアオーケストラ(小学生から高校生までを対象に育成している弦楽アンサンブル)などが参加して行う合同演奏会を実施した。また、上伊那地域の中学校及び高等学校の合唱部生徒が共に集い、聴き合い歌い合う合唱祭を実施するなど、次世代が文化の担い手となるような自主事業に努めている。	地元の中・高校生が参加できるような、会館の特色を活かした自主事業を引き続き実施いただきたい。
職員体制について、事業課長などの欠員がみられるが、組織運営上支障のない配置に配慮してほしい。	適正な職員配置については、従前より事務局に要望しているところである。欠員に対しては、職員同士が協力するなど、組織全体で対応するようにしている。	利用者サービスとの均衡を図りながら、弾力的な勤務体制による運用をお願いしたい。